

## 1. 実況上の着目点

- ① 衛星水蒸気画像では、日本海を中心とした高気圧性循環が見られ、日本付近は引き続き背の高い高気圧の圏内。
- ② ①の高気圧の縁辺を回る正渦度移流や上層寒気の影響で、東シナ海では雷を検知。激しい雨を解析。
- ③ 大型で非常に強い台風第13号は、日本の南を西進。小笠原諸島ではうねりを伴って猛烈なしけとなっており、北～西日本の太平洋側ではうねりが到達して波が高くしけている所がある。



主要じょう乱解説図

## 2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の高気圧性循環はゆっくりと東へ移動して7日夜には不明瞭となるが、西～北日本では7日はじめにかけて、500hPa 5880m以上の高気圧圏内となる。上層から下層にかけて気温の高い状態が続き、西日本を中心に厳しい暑さが続いて酷暑日となる所や、北日本から東日本の日本海側を中心に猛暑日となる所がある。また、西日本では6日と7日朝の最低気温が30℃を下回らない地域もあることから、昼夜を問わず熱中症等の健康管理に注意。
- ② 1項②の正渦度移流や上空寒気の影響により、南西諸島では5日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。
- ③ 1項③の台風第13号は6日にかけて日本の南を西に進み、6日夜には南大東島近海へ進み、その後は速度を落としながら7日夜には沖縄本島近海へ進む。小笠原諸島は台風から遠ざかりつつあるが、5日は高波に厳重に警戒。沖縄地方では7日にかけて、奄美地方では6日～7日は猛烈なしけとなり、台風の接近に伴い猛烈な風が吹く所がある。暴風やうねりを伴った高波に厳重に警戒し、高潮に注意・警戒。伊豆諸島では5日は、西日本太平洋側でも6日～7日は、うねりを伴う高波に警戒。また、台風がかなり接近する沖縄地方では、非常に激しい雨が降って大雨となる所がある。沖縄地方では6日～7日は、土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。台風はその後も9日頃にかけて東シナ海をゆっくり北西進する見込みで、南西諸島を中心に台風の影響が長引く可能性があることに留意。
- ④ 2項③の台風が西進すると共に、台風から離れた西～東日本の太平洋側でも、湿った空気が流入して大気の状態が不安定となり、東や南東に開けた斜面を中心に総降水量が多くなる所がある。西～東日本では6日～7日は、土砂災害や河川の増水、落雷や突風、急な強い雨に注意。

**3. 数値予報資料解釈上の留意点** 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とするが、GSMの台風強度の予測は過大傾向が続いていることに留意。

**4. 防災関連事項【量的予報等】** ① 雨量(06時からの24時間): 多い所(100mm以上)はない。② 波浪(明日まで): 沖縄・奄美 10、小笠原諸島 9、九州南部 7、伊豆諸島・四国 6、その他太平洋側で5～3m。

**5. 全般気象解説情報発表の有無** 全般気象解説情報(台風第13号)を5時頃に発表予定。